

独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第19回
議事要旨

1. 日時 平成17年6月10日(金) 14:00~16:00
2. 場所 国立国語研究所大会議室
3. 出席者 杉戸委員長, 水谷副委員長, 相澤委員, 甲斐委員, 倉島委員, 古賀委員,
佐藤委員, 柴田委員, 関根委員, 田中委員, 鳥飼委員, 長谷川委員,
福田委員, 山崎委員

4. 会議の概要

(1) 自治体アンケート, 意識調査の結果について

「外来語」言い換え提案についての自治体アンケートの結果がまとまり, 非常に多くの自治体から「外来語」言い換え提案が参考になっているとの回答を得たこと, しかしながら, 独自に同様の試みを行っている自治体はごく少数であることなどが報告された。

平成16年10月に行った「外来語に関する意識調査」の中から, 「外来語」言い換え提案の認知度や, 「外来語」言い換え提案が必要だとの意識が, ともに上昇傾向であることなどが報告された。

(2) 「外来語」言い換え提案作業日程について

今後は, 第4回発表に向けて検討を進めると同時に, 1回~4回をまとめた総集編の編集作業にも取り掛かることとし, 作業日程の確認が行われた。

(3) 第4回中間発表について

中間発表原案に基づき, 特に問題の多い語について, 提案をすることの適否も含めて, 集中して議論を行った。

5. 会議での主な意見

イ. 「プライマリーケア」について

- 「プライマリーケア」という新しい概念に対して, 「かかりつけ」のような既存の語を与えて枠を決めてしまうことは避けたい。初期の医療に対する, 医者だけでなく患者の自己責任といった新たな意味合いを持たせるためにも, 新しい語を使って言い換えるほうがよい。
- 「初期医療」というと, 「二次医療」「三次医療」へとつながる以前のごく簡単な医療であるという誤解を生じかねない。「日常医療」ではどうか。
- 「プライマリーケア」とは, 本来, 「治療における初期段階」を指し示す語であるが, 「初期医療」と言い換えると「病気における初期段階」のようでもあり, 分かりにくい。その点を明確に区別し得る言い換え語が望ましい。
- 「包括的なものである」「そこが基本である」という意味合いを入れられるとよい。

ロ. 「アクセシビリティ」について

- 「アクセシビリティ」は, 福祉, あるいはITの世界で, 「障害者や高齢者にも使いやすい」

という限定した意味で使われている語であり、「利用しやすさ」という言い換え語では意味が広すぎるのではないか。

- この語が使われるのが「アクセシビリティが、よい/悪い、ある/ない」などの文脈であるとするれば、「利用しやすさ」では言い換えられず不適切である。
- 現段階で日本語として極めて限定的に使われているからといって、言い換え語も限定的なものを採用するのがはたして良いのかどうか。限定してしまうと、「情報アクセシビリティ」のように一般的な場合に対応できない。

ハ．「ピッキング」について

- 一種の術語であると考え、提案から外してはどうか。
- 最近ではあまり使われなくなってきているようである。使用頻度の減少が確認できるのであれば、提案から外したほうがよいかもしれない。

ニ．「スタートアップ」について

- 候補に挙がっている「立ち上げ」は、その語自体に違和感があるという意見も多く聞かれる問題語である。言い換え提案語としては、ふさわしくないのではないか。
- 本来的に「立ち上げ」という語は間違いであるとの指摘はあるだろうが、現在では違和感なく使用している人も多い。言葉は動いていくものであり、言い換え語として提案しても問題はないのではないか。
- 「設立」も「設置」もなんでも「立ち上げ」という語ですませてしまう風潮は問題であると考える。したがってここでも、「立ち上げ」を提案するのは避けたいと思う。

ホ．その他の語について

- 「センシティブ情報」は官公庁などでよく使われる言葉であり、言い換え提案の趣旨からも、このような語こそ言い換えるべきではないか。多少説明的な言い換えになってしまっても、はっきりさせる必要がある。
- 「クーリングオフ」のように定着しつつある語については、言い換えを提案することがかえって理解を妨げる恐れがある。既に「クーリングオフ」で理解している人のために、言い換え語の後に「クーリングオフ」の語を付け加えるなどの配慮が必要かもしれない。

以上